

NACSIS-CAT/ILL

ニュースレター

Contents

1. 「NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン」の公開	2
2. 平成 21 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表の送付	2
(NACSIS-CAT)	
3. 平成 22 年度総合目録データベース遡及入力事業実施報告	4
4. 海外における NACSIS-CAT 関連イベント開催報告	5
5. TRCMARC の流用による試行登録作業の結果報告	6
6. リモートアクセスされる電子ブックの試行登録作業の結果報告	7
(NACSIS-ILL)	
7. 「ILL システム操作マニュアル ISO ILL プロトコル対応」第 3 版の刊行	8
8. ILL レコードのバックファイル移行スケジュール	9
9. ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告 (平成 22 年度第 3 四半期)	10
(教育研修事業)	
10. 平成 22 年度 NACSIS-CAT/ILL ワークショップの実施報告	11
11. 平成 22 年度目録システム / ILL システム講習会の実施報告	12
(付録)	
・ NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン	



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号
学術コンテンツ課

NACSIS-CAT 担当…………… Tel:03-4212-2310 Fax:03-4212-2375

NACSIS-ILL 担当…………… Tel:03-4212-2320 Fax: 同 上

教育研修事業担当 …… Tel:03-4212-2177 Fax: 同 上

基盤企画課

システム管理担当 …… Tel:03-4212-2220 Fax:03-4212-2230

URL:<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/>

「NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン」の公開

国立情報学研究所では、『書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト最終報告書』（平成 17 年 10 月）において言及された NII アクションプランに基づき、「NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン」を作成しました。

「NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン」は、目録所在情報サービスにおける共同構築・相互利用の趣旨を改めて周知徹底していただくためのものです。NACSIS-CAT/ILL の利用にあたって、大前提となるものですので、参加館の目録業務・相互利用業務の各担当の皆様には、必ず再度ご確認くださいませようお願いします。

「NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン」は、以下の URL でも公開しています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/guideline/index.html>

なお、本号に付録として、このガイドラインを添付しています。

(NACSIS-CAT/ILL 担当)

平成 21 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表の送付

平成 23 年 1 月に、NACSIS-CAT/ILL 参加図書館(機関単位)に「平成 21 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表」を送付しましたので、今後の業務の参考としてご活用ください。また、継続所蔵・未更新所蔵リストのうち、未更新フラグが付いたものについては、ご確認の上、データの更新処理をお願いします。

なお、業務分析表の電子データ (Excel 形式) の申請も受け付けていますので、ご希望の方は、以下のとおり、メールで申請してください。

- メール宛先 : catadm@nii.ac.jp (学術コンテンツ課 NACSIS-CAT 担当)
- メール件名 : H21 業務分析表電子データ申請 (自機関の KID 番号) *
- 申請内容
 1. 機関名
 2. KID 番号
 3. 担当者
 4. 担当者メールアドレス

- * KID 番号とは、お送りした業務分析表の機関名の下に記載した KI+6 桁の数字の番号です。

詳しくは、以下の URL にてお知らせしています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/bunseki2010.html>

(NACSIS-CAT/ILL 担当)

平成 22 年度総合目録データベース遡及入力事業実施報告

平成 22 年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 総合目録データベース遡及入力事業においては、平成 22 年 6 月に 9 機関、平成 22 年 10 月に 2 機関の採択を行いました。図書館資料の共同利用の促進を目的として、遡及入力事業の委託を推進することで、情報入手・資料アクセス環境がより一層整備されました。

平成 22 年度の遡及入力事業の実施結果は、以下のとおりです。

実施機関名	登録件数
お茶の水女子大学	41,000 冊
一橋大学	35,000 冊
名古屋大学	2,413 点**
京都大学	18,300 冊
京都教育大学	13,000 冊
神戸大学	12,600 冊
広島大学	33,960 冊
香川大学	40,000 冊
専修大学	101,900 冊
北海道大学 *	1,000 冊
東京大学 *	2,500 冊

* 平成 22 年 10 月追加採択

** マイクロ資料，地図資料等

(NACSIS-CAT 担当)

海外における NACSIS-CAT 関連イベント開催報告

(1) EAJRS Conference 2010 における NII Workshop の開催

平成 22 年 9 月 1～4 日に、日本資料専門家欧州協会 (European Association of Japanese Resource Specialists: EAJRS) の国際会議が開催され、以下のとおり、NII Workshop を開催しました。この Workshop においては、国立情報学研究所の最新動向報告と、事前に参加者から送られた質問に答える問題解決型の目録講習を実施しました。

日時：平成 22 年 9 月 2 日 (木)

場所：プラゾロッソ講堂 (イタリア ジェノバ)

第 5 セッション議長：Izumi Tytler (オックスフォード大学)

プログラム：

題目	発表者
The future of NACSIS-CAT (NACSIS-CATの将来)	米澤 誠／国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長
NACSIS-CAT Clinic Workshop (NACSIS-CATクリニック・ワークショップ)	高橋 菜奈子／国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課図書館連携チーム係長

(2) ベルリン NACSIS 目録システム講習会の開催

平成23年2月3日に、日独交流150周年事業の一環として、以下のとおり、ベルリン国立図書館にてNACSIS目録システム講習会を開催しました。欧州各地から受講者17名、オブザーバー6名の参加がありました。

日時：平成 23 年 2 月 3 日 (木)

場所：ベルリン国立図書館 (ドイツ ベルリン)

主催：プロイセン文化財団、ベルリン国立図書館、国際交流基金、ケルン日本文化会館、国立情報学研究所

共催：日本資料図書館連絡会 (ドイツ語圏)、Japan Library Group (英国)、日本資料専門家欧州協会

協力：東京大学附属図書館

プログラム：

講義名		講師
2月3日 午前	開講式	
	NACSIS-CAT (図書編)	高橋 菜奈子 / 国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 図書館連携チーム係長
	クリニック・ワークショップ	
2月3日 午後	NACSIS-CAT (雑誌編)	成澤めぐみ / 東京大学附属図書館 情報管理課資料管理係長
	演習	進行：細川 聖二 / 国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 副課長
	質疑応答	
	閉講式	

(NACSIS-CAT 担当)

TRCMARC の流用による試行登録作業の結果報告

『次世代目録所在情報サービスの在り方について (最終報告)』(平成 21 年 3 月)において提言された NACSIS-CAT 外に存在する書誌データの活用に向け、「丸善新刊案内」に掲載された和図書について、TRC MARC を流用した事前書誌登録作業を試行実施しました。

(1) 実施内容

登録元データ	丸善新刊案内 (2010 年 2 月号～4 月号) ※雑誌など図書として扱えないものは対象外
登録期間	平成 22 年 1 月 7 日～3 月 26 日
所蔵レコード登録 参加組織名	国立情報学研究所 (FA024487)

(2) 結果概要

① 事前書誌登録作業の概況

登録点数		6,552 件
内 訳	書誌レコード作成	4,384 件
	書誌レコード VOL 追加	775 件
	所蔵レコード登録 (書誌レコード既登録)	1,393 件

書籍発売から、TRCMARC を流用して事前書誌登録作業を行うまでにタイムラグがあったため、事前書誌登録作業以前に既に書誌作成されていたものが 21.3%を占めた。

② 所蔵登録の状況

	5月末	11月末
所蔵館ありの書誌レコード数	4,389	4,389
FA024487 以外の所蔵レコードあり書誌数	3,997	4,203
親書誌レコードの書誌数	144	142
書誌利用数 (書誌作成 4,384 件中)	4,141	4,345
書誌利用率	94%	99%
所蔵レコード数	91,481	176,648

事前登録した書誌のほとんどに所蔵レコードが登録されており、有効活用されていた。

③ レコード調整件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	
1	27	19	27	21	7	
7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
8	2	4	3	4	2	125

機械処理による登録ではなく、目視チェックを行った登録であったが、品質面での課題が残った。

詳しくは、以下の URL にてお知らせしています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/cip/mshinkan.html>

(NACSIS-CAT 担当)

リモートアクセスされる電子ブックの試行登録作業の実施報告

コーディングマニュアル「リモートアクセスされる電子ブックの取扱いについて」に基づき、OCLC NetLibrary から提供される和図書（電子ブック）について、事前書誌登録を試行実施しました。

登録元データ	OCLC NetLibrary から提供される和図書（電子ブック）
登録期間	平成 22 年 8 月 17 日～ 9 月 30 日
所蔵登録	国立情報学研究所 (FA024498)

登録した書誌件数は 1,280 件です。今後、結果のとりまとめを行う予定です。

(NACSIS-CAT 担当)

「ILL システム操作マニュアル ISO ILL プロトコル対応」第3版の刊行

「ILL システム操作マニュアル ISO ILL プロトコル対応」第3版を平成22年12月に刊行しました。

グローバル ILL 参加館には、平成23年1月に各機関1部ずつ発送しておりますが、部数の追加をご希望の場合には、以下のとおり、メールで申請してください。

- メール宛先 : illadm@nii.ac.jp (学術コンテンツ課 NACSIS-ILL 担当)
- メール件名 : ILL マニュアル (ISO ILL プロトコル対応第3版) 送付希望
- 申請内容
 1. 機関名
 2. 参加組織番号 (FA 番号)
 3. 担当者
 4. 送付先郵便番号・住所・電話番号
 5. 必要部数

なお、以下の URL にて、マニュアルを公開しています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/illmanual.html>

(NACSIS-ILL 担当)

ILL レコードのバックファイル移行スケジュール

本誌 32 号 (2010.12.28) において、平成 23 年度以降の ILL レコードのバックファイル移行スケジュールについてご案内しましたが、以下のとおり詳細が決まりましたのでお知らせします。

これまで年 2 回 (4 月, 10 月) 行っていた ILL レコードのバックファイル移行を、平成 23 年度から、年 1 回 (10 月第 4 日曜日の予定) の実施に変更します。これにより、最終更新日から 1 年以上経過した最終状態 (「CANCEL」, 「確認」, 「返却確認」) のレコードが、別ファイル (バックファイル) に移ることになります。

移行実施日		平成 23 年度 平成 23 年 10 月 23 日 (日) (予定)
ファイル	レコード状態 <STAT>	更新日付<RNWDT>
カレント ファイル	「CANCEL」 「確認」 「返却確認」 以外	すべて
	「CANCEL」 「確認」 「返却確認」	2010.10.01～
バック ファイル	「CANCEL」 「確認」 「返却確認」	2008.10.01～2010.09.30

(NACSIS-ILL 担当)

ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告

(平成 22 年度第 3 四半期)

ILL 文献複写等料金相殺サービスの処理状況は、以下のとおりです。

◆ 平成 22 年度第 3 四半期 (平成 22 年 10 月～12 月)

- ・利用機関数：815
- ・処理対象 ILL レコード件数：222,583 (NACSIS-ILL 総レコード件数：247,489)

		対債務機関	対債権機関
機関数		476	335*
NII の請求額/支払額		22,946,775	▲22,885,284*
内 訳	相殺金額	22,941,139	▲22,941,139
	運営費 (税込)	9,450	3,150
	前期債権繰越額	▲3,814	▲2,315
	振込手数料	---	55,020

* 対債権機関の機関数, NII の支払額には次期繰越分 (13 機関, 5,685 円) が含まれています。

(NACSIS-ILL 担当)

平成22年度 NACSIS-CAT/ILL ワークショップの実施報告

平成22年12月8日(水)～10日(金)に開催した「NACSIS-CAT/ILL ワークショップ」では、「目録業務のマネージメント」をテーマに、グループ討議の課題として、「NACSIS-CAT/ILL 業務分析表を活用した業務改善」を設定しました。

受講者は選択した課題について、事前に現状分析・問題提起とその改善案・原案を提出し、それに基づき研修初日にプレゼンテーションを行いました。3日間のカリキュラムを通じて、異なる立場の担当者が主体的・集中的にグループで協働作業を行い、問題解決をするという「目録関連業務における機関内の中核的人材」養成にふさわしいワークショップになりました。

◆ 講義内容

講義名	講師	
NACSIS-CAT/ILL の理念と課題解決に向けた取り組み：いかにして業務分析表が生まれたのか	米澤 誠	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課長
次世代目録所在情報サービスの在り方：電子的情報資源時代への対応とは？	佐藤 義則	東北学院大学 文学部教授
21世紀の目録法と目録規則	渡邊 隆弘	帝塚山学院大学 人間科学部情報メディア学科准教授
OCLC の動向	荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務副部長兼 総務課長
大学図書館からの報告（業務分析に関する期待）	大西 直樹	滋賀医科大学 附属図書館 図書課長
大学図書館からの報告：ゼロからの取り組み（業務改善事例報告）	小山 信弥	関東学院大学 図書館運営課

◆ グループ発表内容

発表タイトル	受講者	
電子情報資源に対応した目録所在情報サービスの実現－利用の側面から－	伊藤 えりか(日本貿易振興機構アジア経済研究所)	杉原 繁子 (山口大学)
	市東 礼位子 (首都大学東京)	矢田 貴史 (島根大学)
カタログのなやみを解決－次世代書誌調整連絡ツールの提案－	岡田 逸太 (神戸大学)	林 賢紀 (農林水産技術会議事務局筑波事務所)
	澤口 由好 (名古屋大学)	藤本 愛子 (旭川医科大学)
みんなで頑張る共同分担	上野 友稔 (島根県立大学)	西山 光幸 (北海道大学)
	田崎 淳子 (東京大学)	山本 豪 (鳴門教育大学)

講義資料、受講者の成果物等は、教育研修事業ウェブサイトで公開しています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/ciws/>

(教育研修事業担当)

平成 22 年度目録システム/ILL システム講習会の実施報告

平成 22 年度の目録システム/ILL システム講習会を、下記のとおり実施しました。

本講習会では、平成 20 年度より、1)「職場でのセルフラーニング (NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材及びセルフラーニング修得テストの履修)」と2)「講習会場での集合研修 (講義・実習)」という構成で実施しています。

講習会名	回数		修了者数
目録システム講習会 (図書コース)	NII 会場	5 回	387 名
	地域会場	11 回	
目録システム講習会 (雑誌コース)	NII 会場	4 回	191 名
	地域会場	3 回	
ILL システム講習会	NII 会場	2 回	133 名
	地域会場	3 回	
合計		28 回	711 名

平成 23 年度も、引き続き「職場でのセルフラーニング」と「講習会場での集合研修」をもって、講習会の課程を修了するものいたします。受講者の所属機関においては、より一層、業務時間内でのセルフラーニング教材の視聴及び修得テストの受験について、ご配慮いただきますようお願いいたします。

なお、セルフラーニング教材は利用申込することにより、どなたでもご利用になれます。詳細については、以下の URL にてお知らせしています。

教育研修事業ウェブサイト URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/>

平成 23 年度の講習会開催に係る情報は、『平成 23 年度教育研修事業要綱』として平成 23 年 4 月に各機関宛に冊子をお送りするとともに、上記教育研修事業ウェブサイトでもお知らせします。

(教育研修事業担当)

NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン

はじめに

NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドラインは、書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト最終報告（平成 17 年 10 月）の NII アクションプランに基づき、策定したものです。

本ガイドラインによって、共同構築・相互利用の趣旨を十分理解していただき、本ガイドラインに則った NACSIS-CAT/ILL の利用を行なってくださるようお願いいたします。

平成 23 年 1 月

国立情報学研究所 学術コンテンツ課

(導入編)

NACSIS-CAT は、オンライン共同分担目録方式により、全国規模の総合目録データベース（図書・雑誌）を形成するためのシステムです。それぞれの参加館は、NACSIS-CAT の書誌情報や所蔵情報をダウンロードして、各図書館の OPAC 作成を行うことができます。

また、ここで作成された総合目録データベースを利用して、それぞれの図書館が自館で所蔵していない資料を相互に提供する「図書館間相互協力」を、NACSIS-ILL システムにより実施しています。

さらに、NACSIS-CAT で作成された総合目録データベースを、NII の学術系コンテンツサービスである Webcat や Webcat Plus を通じて、一般の利用者にも提供しています。

NACSIS-CAT/ILL システムの利用開始にあたっては、以下の点に留意してください。

NACSIS-CAT/ILL 参加館（以下「参加館」という。）は、以下を実施する必要があります。

(利用者番号およびパスワードの管理)

1. 利用者番号とパスワードは、関係者（目録担当者、ILL 担当者等） 以外に知られないように厳重に管理する。

(目録システム講習会の受講)

2. 目録システム（NACSIS-CAT） の業務での利用開始に先立ち、目録担当者は、必ず 1 名以上、目録システム講習会を受講する。

(NACSIS-CAT/ILL 両システムの利用)

3. 原則として、NACSIS-CAT/ILL 両システムを利用する。

(その他)

4. 遵守事項（「国立情報学研究所目録所在情報サービス利用規程」第 6 条）を遵守する。

【解説】

(利用者番号およびパスワードの管理)

1. 利用者番号とパスワードは、関係者（目録担当者、ILL担当者等）以外に知られないように厳重に管理する。

NACSIS-CAT/ILL を利用するための利用者番号とパスワードは、図書館の業務担当者が、総合目録データベースへのデータ登録および相互利用（NACSIS-ILL システムの利用）等の業務を行うために利用するものです。利用者番号やパスワードが業務担当者以外に漏れると、データベースへの不正アクセスが生じ、データを改変される危険がありますので、各業務の担当者以外に情報が漏れることがないように厳重に管理する必要があります。

(目録システム講習会の受講)

2. 目録システム（NACSIS-CAT）の業務での利用開始に先立ち、目録担当者は、必ず1名以上、目録システム講習会を受講する。

目録システム（NACSIS-CAT）は、参加館共有のデータベースですので、一定の基準に従って、書誌・所蔵の登録を行わなければなりません。そのため、業務での利用を開始する前には、少なくとも1名以上の担当者が目録システム講習会を受講し、目録業務担当者が共通に理解しておくべき、総合目録データベースの構成・内容、データ登録の考え方（入力基準）を修得する必要があります。そのために、NII では、毎年、NII および各地域の会場において、目録システム講習会を開催しています。

(NACSIS-CAT/ILL 両システムの利用)

3. 原則として、NACSIS-CAT/ILL 両システムを利用する。

目録所在情報サービスは、原則として NACSIS-CAT/ILL の両システムを利用することとします。なお、NACSIS-ILL を利用しない場合は、下記のような対応も認められます。

- 訪問利用等を受け付ける
 - 機関内に複数の図書館室があり、相互利用については、一部図書館室で代表して行っている場合、NACSIS-ILL の受付を同一機関内の他の参加館が代行する
- 総合目録データベースの共同構築・相互利用の理念からも、両システムの利用をお願いします。

(その他)

4. 遵守事項（「国立情報学研究所目録所在情報サービス利用規程」第6条）を遵守する。

「国立情報学研究所目録所在情報サービス利用規程」

(利用に当たっての遵守事項)

第6条 利用者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 第2条（利用の定義）の規定に違反してシステムを使用しないこと。
- 二 営利を目的とした利用を行わないこと。
- 三 著作権を侵害しないこと。
- 四 プライバシーを侵害しないこと。
- 五 著作権者等の定める使用条件に違反しないこと。
- 六 その他所長の定める事項

(共同構築編)

NACSIS-CAT/ILL 参加館 (以下「参加館」という。) は、以下の項目を実施する必要があります。

(共同構築)

1. 目録を分担して共同作成し、相互に利用するという共同構築の理念を遵守する。

(レコード登録対象資料)

2. ILL の受付が可能な資料の書誌、所蔵レコードの登録を行う。

(レコード登録・削除)

3. レコード登録対象資料については、常に最新状況を保つように努め、書誌作成の煩雑さや、レコード調整の回避のために、データの更新を怠るような状況を生じないように作業を行う。

(レコード調整)

4. NII からのレコード調整に対応する。また、他参加機関からのレコード調整に関する問合せに対応する。

参加館は、以下を実施することが望まれます。

(レコード登録対象資料)

5. ILL の受付が不可能な資料の書誌、所蔵レコードの登録も行う。

(レコード登録)

6. 典拠レコードの作成を行う。
7. 書誌レコードに、分類・件名の付与を行う。

【解説】

1. 目録を分担して共同作成し、相互に利用するという共同構築の理念を遵守する。

NACSIS-CATは参加館が協力して構築・運用していくデータベースであり、単にローカルデータを作成するためのツールではありません。また作成したデータは、すべての参加館で共有するものであり、一定の品質を持つ必要があります。

2. ILL(※)の受付が可能な資料の書誌、所蔵レコードの登録を行う。(※NACSIS-ILLのみではなく、外部からの利用に供することができるという意味での広義の相互利用を含む)

総合目録データベースには、遡及入力も含めてなるべく多くの資料を登録することが求められていますが、参加館の都合により、すべての資料を登録できない場合もあります。

総合目録データベースの相互利用の理念に基づき、まずはカレントの受入資料のうち、ILLの受付が可能な資料の書誌、所蔵レコードの登録は必ず行ってください。その上で、未遡及資料についても、順次、登録を行ってください。

3. レコード登録対象資料については、常に最新状況を保つように努め、書誌作成の煩雑さや、レコード調整の回避のために、データの更新を怠るような状況を生じないように作業を行う。

総合目録データベースは、1にあげたように、参加館が協力して構築していくデータベースです。レコード登録対象資料については、常に最新状況を保つように努め、書誌作成・修正、所蔵登録、所蔵削除等のメンテナンスを行ってください。具体的には、下記のような点に注意してください。

① 書誌未登録を理由に所蔵登録を延期しない

総合目録データベースに求める資料の書誌レコードが登録されていない場合、書誌作成は煩雑だから、等の理由で、他の参加館が書誌レコードを作成するまで登録を待つケースが見受けられます。

この行為は共同構築の理念に反することになりますので、他館の書誌作成を待たずに、積極的に書誌レコードおよび所蔵レコードを登録してください。

② 書誌未登録を理由にローカルデータベースのみの登録をしない

総合目録データベースに求める資料の書誌レコードが登録されていない場合、書誌調整の対応が煩雑だから、等の理由で、総合目録データベースへ書誌・所蔵レコードを登録せず、ローカルデータベースにのみ登録するというケースが見受けられ

ます。

この行為は共同構築の理念に反することになりますので、ローカルデータベースにのみ登録するのではなく、総合目録データベースへ書誌レコード及び所蔵レコードを登録してください。

③ 廃棄等で所蔵のなくなった資料の所蔵レコードは削除する

廃棄等で所蔵しなくなった資料の所蔵レコードが削除されずに、総合目録データベースに残っているケースが見受けられます。当該資料に ILL の依頼があった場合は謝絶せざるを得ず、円滑な ILL 業務の妨げとなります。

所蔵のなくなった資料に関しては、ローカルデータベースのレコードだけではなく、総合目録データベース上の所蔵レコードも削除してください。

④ 「雑誌未更新所蔵リスト」に掲載された所蔵情報を更新する

総合目録データベースの雑誌所蔵レコードが、最新状況に更新されていない参加館が見受けられます。更新を怠っていたため実際には所蔵していなかった巻号に ILL の依頼があった場合は、謝絶せざるを得ず、円滑な ILL 業務の妨げとなります。

毎年、NII から各参加館宛に、「NACSIS-CAT/ILL 業務分析表」を送付しています。業務分析表には、雑誌所蔵レコード中の継続所蔵及び仮登録所蔵の全リストである「継続所蔵・未更新所蔵リスト」が添付されています。リスト中、2年以上更新されていないレコードには「未更新フラグ」を記載していますので、少なくとも、この「未更新フラグ」のついた所蔵レコードについては、最新の所蔵状況へと更新してください。

⑤ 典拠リンク形成を可能な限り行う

書誌レコード新規作成時に、すでに該当の典拠レコード（著者名典拠レコード、統一書名典拠レコード）が登録されており、同定が可能な場合は、必ずリンク形成を行ってください。なお、同定が困難な場合は、リンク形成を放棄することも可能です。リンク未形成の書誌を修正した場合も、同様に典拠レコードを検索し、リンク形成を行ってください。

4. NII からのレコード調整に対応する。また、他参加館からのレコード調整に関する問合せに対応する。

書誌、所蔵レコードの登録だけではなく、レコード調整への対応も、共同構築の一端を担うものです。

NII からは、重複書誌統合、誌名変遷などにより、所蔵の付替、分割が必要になったレコードのリストを、「レコード調整連絡表」として定期的に各参加館に送付していま

す。リストが到着した際は、速やかに所蔵レコードの付替、分割作業を行ってください。
「レコード調整連絡表」以外に、他参加館や NII から個別に依頼があった場合も、同様に作業を行ってください。

また、他参加館や NII から、所蔵資料の現物確認の依頼や、書誌内容への問合せがあった場合は、適切に対応を行ってください。

----- 以下は必須事項ではないが可能な限り行うことが望ましい事項（選択事項） -----

5. ILL の受付が不可能な資料の書誌，所蔵レコードの登録も行う。

NACSIS-CAT は，オンライン共同分担目録方式により全国規模の総合目録データベースを形成するためのシステムです。この理念に基づき，ILL の受付が不可能な資料の書誌，所蔵レコードの登録も，可能なかぎり行ってください。

6. 典拠レコードの作成に努める。

書誌新規作成，あるいは修正時に，該当の典拠レコード（著者名典拠レコード，統一書名典拠レコード）が登録されていない場合は，リンク形成を放棄するのではなく，典拠レコードを新規に作成し，リンク形成を行ってください。

7. 件名・分類の付与に努める。

件名，分類の記入は「選択」レベルですが，できる限り記入することが望まれます。
書誌流用入力や既存の書誌の修正の際には，明らかな誤りがある場合を除いて，既存の件名・分類を削除することは行わないでください。

(相互利用編)

NACSIS-CAT/ILL 参加館（以下「参加館」という。）は、以下を実施する必要があります。

(相互利用)

1. 所蔵資料の相互利用を実施する。なお、事情により文献複写・現物貸借の受付を行えない場合でも、訪問利用は可能とするように努める。

(レンディング・ポリシーの公開とメンテナンス)

2. 自館のレンディング・ポリシーを公開する。また、レンディング・ポリシーは常に最新の利用条件を公開するようメンテナンスに努める。

(運用にあたっての遵守事項)

3. 相互利用関係法令および各コミュニティの申合せを遵守する。

(NACSIS-ILL 利用上の注意事項)

4. 参加館は、適時 NACSIS-ILL の処理を行い、自館が回答する必要があるレコードが存在する場合には、迅速に対応する。
5. レンディング・ポリシーに基づかないサービス・ステータスの切り替えを行わない。
6. サービス・ステータスを「N」とする場合は、レンディング・ポリシーに理由と期間を明記する。

参加館は、以下を実施することが望まれます。

(その他)

7. ILL 文献複写等料金相殺サービスに参加するように努める。

【解説】

1. 所蔵資料の相互利用を実施する。なお、事情により文献複写・現物貸借の受付を行えない場合でも、訪問利用は可能とするように努める。

参加館は国立情報学研究所目録所在情報サービス利用細則(以下「利用細則」という。)第2条(一)において、図書館間相互貸借(ILL)の受付を行うことと定めています。『図書館協力便覧』によると、訪問利用(利用者が、資料の所蔵館に直接出向いて、その所蔵資料を利用すること)も相互利用に含みます。

2. 自館のレンディング・ポリシーを公開する。また、レンディング・ポリシーは常に最新の利用条件を公開するようメンテナンスに努める。

レンディング・ポリシーは、参加組織の利用条件に関する事項を記載し、他の参加館に周知するものです。参加館はILL業務を円滑に運用するために、自館のレンディング・ポリシーを公開し、常に最新の利用条件を公開するようメンテナンスに努める必要があります。

3. 相互利用関係法令および各コミュニティの申合せを遵守する。

相互利用においては、相互利用関係法令および各コミュニティの申合せに従うことが前提となりますので、予めそれらをご確認ください。

- 参考 図書館間相互利用関係法令及び申し合わせ

http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_info_agreement.html

4. 参加館は、適時NACSIS-ILLの処理を行い、自館が回答する必要があるレコードが存在する場合には、迅速に対応する。

参加館は、自館が回答する必要があるレコードが存在する場合には未処理のまま放置せず、迅速に対応してください。

具体的には、各処理における以下の状態のレコードが該当します。

- 依頼処理：新着照会・クレーム回答待・返却クレーム未処理
- 受付処理：未処理・回答待・クレーム未処理・更新請求

そのために適時(1日1回以上が望ましい)、NACSIS-ILLの処理状況の確認をお願いします。

5. レンディング・ポリシーに基づかないサービス・ステータスの切り替えを行わない。

ILL担当者の都合により、頻繁にサービス・ステータスの切り替えを行っている参加館が見られます。サービス・ステータスは参加館としてのポリシーを表すものであり、業務量の多寡や担当者の個人的な都合等によっては変更しません。

6. サービス・ステータスを「N」とする場合は、レンディング・ポリシーに理由と期間を明記する。

サービス・ステータスを「N」（受付しない）に切り替える場合は、レンディング・ポリシーに理由と期間を明記してください。これは他の参加館に対して、受付できない事由を周知し、ILL業務を円滑に運用するために必要なことですので、その趣旨を踏まえた運用をお願いします。

7. ILL 文献複写等料金相殺サービスに参加するように努める。

ILL 文献複写等料金相殺サービスには以下のような特長があり、参加館が増えるほどメリットが高まります。参加を積極的に検討してください。

- 従来の国立大学間での相殺処理を、公私立大学も含めた全ての機関を対象に拡大
- 国立大学の支払は「納入告知書」から銀行振込に変わり支払方法が簡便に
- 料金支払は後納制でもよくなることから現物提供期間が短縮されるとともに手続回数が短縮され利用者の負担が大幅に減少
- 徴収猶予規定が無くなり全ての機関を対象にした料金の集約が可能
- 四半期毎に機関単位で集約し処理することにより、振込手数料の大幅な削減が可能

